コロナ禍を乗り越えて

～逆境下でもたくましく生き抜く「興動人」を育成～

広島経済大学 広報

発行所
広島経済大学
広島市安佐南区祇園
五丁目37番1号
郵便番号731-0192
電話番号（082）871-1000㈹
オフィシャルサイト www.hue.ac.jp

2面 3面 私を支えた「絆」
4面 私の就職活動体験記
5面 新型コロナウイルスに負けるな！
―新しい学生生活―
6面 令和3年度 学生募集要項

かけがえのない教育の場を守る覚悟と取り組み

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、前期は学生の登校自粛や課外活動の停止を決定し、オンライン授業を実施した。そのなかで、オンラインでの学びの利点と課題が明らかになってきた。ここでは、前期授業の振り返りと今後のウィズコロナ・アフターコロナ時代を見据えた学びのあり方についてのビジョンを紹介する。

指定された座席に座り授業を受ける様子

変わりゆく授業のあり方

新型コロナウイルス感染症が急激な速さで世界中に拡大し始めた今年1月から、本学では学生や教職員への注意喚起や海外渡航の中止・延期要請を行い、2月には小谷幸生学長を本部長とする「新型コロナウイルス危機対策本部」を速やかに設置。下宿生への生活応援物資の支援や家計急変に対応する経済的支援、前期オンライン授業の実施、パソコンの貸与など、学生の「学びを止めない」ためのさまざまな取り組みを決定し、行ってきた。

なかでも、学生と教職員の安全を第一に考えて止むを得ず決断した前期のオンライン授業は、長期的に見れば教育の場にさまざまな示唆を与えるものとなった。新しい生活様式への対応には混乱も生じたが、オンライン型のビジネスやリモートワークは今や市民権を獲得し始めており、今後はさらにデジタル化が加速していくことが予想される。学生も教育関係者も、そうした社会で生きる力が今後一層必要となっていくだろう。前期のオンライン授業への移行は、学生・教職員のITリテラシーの向上に大いに貢献したといえる。

本学ではオンライン授業を「オンデマンド型」と「リアルタイム型」で実施し、対面授業とは異なるさまざまな利点を得ることができた。

教員が授業動画を制作・配信する「オンデマンド型」では、学生が自分に適した学修ペースで受講でき、繰り返し視聴することもできるため復習しやすく、学生にとって大きなメリットとなったようだ。

履修した学生全員が同時刻に受講する「リアルタイム型」では、教員が学生一人ひとりに声を掛け、対話を重視するなどの工夫によって質問や発言が活発に飛び交うようになったほか、対面型のグループワークと同等の授業成果を上げることができたという報告もある。これらは学生たちの柔軟な対応力と教員の不断の努力の成果といえる。

さらに、多くの授業で課題が出されたことで授業外での学修時間がより増え、学びの姿勢の強化にもつながった。

一方、課題も浮き彫りになった。教室という空間を共有できないことで学生間の一体感が生まれにくく、特にゼミなどのアクティブラーニングの成果が期待される授業では、学生同士が共に考え議論する学び合いの場としての役割を充分に果たすことができなかったケースもあった。

こうしたオンライン授業での経験を今後の授業に活かすべく、後期の授業体制の見直しを図った。

新型コロナウイルス感染症の収束にはなお時間を要すると見られるものの、「正しく恐れる」を行動規範として、感染症の拡大防止に万全の対策を講じたうえで対面授業を主体に切り替える決断をした。授業では、受講者数を教室定員の半分以下に抑えるとともに座席指定を徹底した。また、昼食場所の臨時増設及び、学内で弁当を販売することで学食の混雑回避に努める。さらに、食堂テーブルには飛沫防止のアクリル板を設置し、昼食時間には職員が巡回して感染防止マナーの徹底を指導している。

後期の取り組みについて小谷幸生学長は「前期のオンライン授業で見えた課題を真摯に受け止めるとともに、充分な教育効果を上げるためにはリアルな空間での学びこそ重要であることを改めて実感しました。対面授業というかけがえのない教育の場を守るために、学生にも感染予防の徹底に協力を強く求めています。

前期の経験を活かし後期には、学生が学修時間を充分に確保できるよう、補講はオンライン方式（オンデマンド型）で実施するとともに、一部の授業では課題提示と学生の課題提出をオンラインシステムに統一し、ペーパーレス化を図ったり、対面授業を同時録画し、欠席者が後日オンラインで受講できるようにします。

また、感染症の拡大防止には、今後の状況に応じて迅速に対応していきます。学生には自分の行動が他者に及ぼす影響に思いを巡らすとともに、これからも冷静で思いやりのある対応力を持ち続けてほしいです」と語った。

昼食時に感染防止マナーの徹底を呼びかける職員

学生の学びを止めないために

令和2年度 前期学位記授与式挙行

学位記を受け取る卒業生

9月24日、第25回前期学位記授与式が、本学大会議室において厳粛に執り行われた。

晴れて卒業の日を迎えたのは、経済学部20名（経済学科5名、経営学科10名、ビジネス情報学科3名、メディアビジネス学科1名、スポーツ経営学科1名）の学生と、大学院生1名（経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程）。新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、来賓などの列席を制限して挙行されたが、石田恒夫理事長をはじめとする学園関係者、教職員らが見守るなか、一人ひとり小谷幸生学長から学位記が手渡された。

式辞に立った小谷幸生学長は、「これから皆さんは、自分の職務経歴は会社任せではなく、自分で主体的に作っていくという『キャリア・オーナーシップ』の意識を持つことが大切です。オーナーシップとは、直訳すれば『所有権』のことですが、自分の持ち物に対するのと同じように、自分事と捉えて行動する姿勢のことを言います。一人ひとりが自分にふさわしいキャリアを自身の意思と行動で作り上げるという気概を持つこと、そして、社内だけでなく社外でも通用するような汎用性と深みのある知識やスキルを獲得していくことが強く求められるのです。

皆さんが卒業後も自己研鑽に努め、本学で学び、経験した土台のうえに、いかなる状況にでも対応できる真の実力を磨き上げ、輝かしい未来を切り拓いていくことを心から願っています。

新型コロナウイルス感染症の収束にはなお時間を要するとみられます。当面は我慢の時期が続きますが、感染予防には細心の注意で臨み、健康的な毎日を過ごしてください。そして自分の目標をシッカリと定めて着実に歩みを進めてほしいと思います」と激励した。

また、式典に先立ち、インドネシアに帰国するため出席できない大学院博士課程後期課程修了生のギギ・フィトリアントさんに対し、帰国前の9月18日に学長室において博士号（経済学）の学位記授与が行われた。

4カ月遅れのプロジェクト認定式で「認定証」を受け取るプロジェクトリーダーたち

これからの時代に求められる「興動人」

一方で、興動館プロジェクトは現在も活動が制限されている。本学が目指す「興動人」の育成について、今後のビジョンを小谷幸生学長に聞いた。

「厳しい制約下で学生と教職員が力を合わせて取り組んでいます。プロジェクト活動は実践に向かうための準備が最も大切であり、成功の9割は準備で決まると言っても過言ではありません。たとえ計画が縮小されても、その努力は『興動人』の育成に充分な効果があると考えています。既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神を備えた『興動人』の育成を目指す本学の教育方針は、逆境にあってこそたくましく生き抜く人間力の養成につながるものと確信しています」と熱く語った。

さらに今後の取り組みについては、「来年度の新入生からノートパソコンを必携化とします。また、授業はオンライン学修による予習を前提とし、対面授業では質疑応答やグループワーク等を主体とする『反転型授業』の導入を検討していきたいと思います。学生のニーズにきめ細かく対応するとともに、地元産業や自治体との連携をさらに強化し、興動館プロジェクトの一層の拡充と高度化にも力を注いでいきます」と力強く語った。

「興動人」の育成を掲げる本学の教育ビジョンは今後も揺らぐことはない。ウィズコロナ・アフターコロナ時代においても、たくましく未来を切り拓く人材を社会に輩出することは本学の重要な役割であり続ける。学生が明るい未来を構築していけるよう、どんな状況にあっても教職員が一丸となって教育と学生支援に情熱を注いでいく。

私を支えた「絆」

コロナ禍で

大学へ通えなかった半年間、学生たちはお互いの「絆」を感じながら乗り越えてきた。支え合い前向きに成長した学生たちの姿に迫る。

大学祭実行委員会の「絆」

張 盛さん（経済学科３年・広島県／広島県瀬戸内高校出身）

大学祭実行委員会として１年次の頃から一緒に活動してきました。直木さんは昔から、頼まれたら断れない性格で、何事にも必死に取り組んでいる姿が印象的でした。特に他大学の大学祭の舞台に立つスタンツ披露では、体を張って誰よりも練習をし先頭に立ってパフォーマンスをする盛り上げ役です。その姿はとても頼もしく、もし直木さんが委員長になったら自分がサポートする、自分が委員長になったら支えになってくれると考えるようになりました。

３年次になり、実際に共に中心で活動していくなかで、会議の内容やこれからのことについてなんでも相談に乗ってもらいました。例年とは違った進め方でしたが、想像していた通り、直木さんは頼もしい相棒となりました。

中止の決断をするまで「絶対成功させる」という思いで進めてきましたが、現実はとても厳しいものがありました。でも、落ち込むことはあっても全力で取り組んできたので、苦しさはありませんでした。これまでの道のりを大切にし、学んだ自主性や協調性を活かして成長し続けたいと思います。そして来年の開催を直木さんと一緒に見届けたいです。

直木 広一さん（経済学科３年・広島県／美鈴が丘高校出身）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を考えながら、「経大祭」をより多くの方々に楽しんでもらうためにはどうしたら良いかについて話し合いを行ってきました。上手くいかないときも、お互いに励まし合いながら開催を目指してきました。張さんは、苦しいときも後輩や同級生たちに声をかけ続けていて、心遣いができるすごい人だと思います。私も「一緒に頑張っていこう、一人でやらずに皆でやろう」と言われ、とても救われました。

結果的に中止となりましたが、話し合いを重ねたことで、「経大祭」が毎年開催されることは当たり前のことではなく、多くの方々の協力のもと成り立っている行事であることに気づくことができました。そして、何事にも全力で取り組む張さんといると、ユニークで誰からも好かれる明るい委員長と協力して、「経大祭」を成功させたいと強い決意で幹部になったときのことを思い出し、「経大祭」への気持ちを再認識することができました。

本来であれば３年次生は代替わりをしますが、私も張さんも後輩たちをサポートしたいという熱い思いは同じなので、来年の開催に一緒に携わっていきたいです。

女子学生リーダーの「絆」

齋藤 史恵さん（経営学科３年・広島県／忠海高校出身）（写真左）

５月からは、お互い実家に戻り、直接会うことができなかったため、LINE で連絡を取り合いながら勉強のことや部活動のことについて話を聞いてもらっていました。私が所属する応援団の活動では、楽器を使わずに一緒に盛り上げる応援についてミーティングを重ねていましたが、普段通りの活動ができず前向きな考え方になれませんでした。そんなとき、夜船さんは、同じように「こまち会」の活動やイベントができない状況にあるなかでも、オンラインや SNS などを利用して工夫を凝らした活動をしていると聞いて刺激をもらい、私も部活動や勉強を両立して頑張ろうと、考えるようになりました。

また、毎朝１時間歩くことを継続していたり、オンラインでの授業も熱心に受講していたりと、夜船さんの真面目な一面も知ったことで、改めて尊敬できる友人だと思いました。自粛という経験したことのない状況のなかで「目標を決めてそれに向けて継続する大切さ」に夜船さんが気づかせてくれました。卒業して、お互いに離れ離れになっても、遠慮なく何でも言い合える関係のままでいたいです。

夜船 美紀さん（経営学科３年・岡山県／岡山東商業高校出身）（写真右）

自粛期間中は、思うような大学生活が送れなかったことでストレスを感じたり、どこにもぶつけようのないウズウズした気持ちでいっぱいになったりと、不安な感情を抱えていました。そんなとき、話を聞いてくれたのが齋藤さんでした。LINE を使った文章でのやりとりでしたが、たわいもない会話がとても楽しくて、心が安らぎました。私は普段から、固定概念をもって行動してしまうタイプですが、齋藤さんは 180 度違う方向から意見をくれます。そういった考え方もあるのだと気づかせてくれるので、話をしているうちに意識を変えることができ、気分転換することができました。

後期の授業が始まってから少しずつ普段の大学生活を取り戻し、お互いの活動の幅も広がってきました。「こまち会」では今、新入生の勧誘活動のための動画作成などに取り組んでいます。齋藤さんも「応援団で活動できることにやりがいを感じている」と笑顔で話をしてくれ、私まで嬉しくなりました。

大学で打ち込んでいることは違いますが、これからもお互いに意見交換をしながら高め合える存在でありたいと思います。そして、卒業後も一生続く友人でいたいです。

随想

これからの日本的経営を考える

経営学部 経営学科
松川佳洋 教授

かつて、世界からも注目された日本的経営に大きな疑問符がつけられてから久しい。歴史的な面から考えると、１９４５年に第二次世界大戦で敗戦した日本は、１９６０年代には高度成長期を迎え、世界でも極めて稀な経済成長を遂げた。

アメリカの経営学者のジェームズ・アベグレンは、戦後の日本の企業の発展の源泉は、「終身雇用」、「年功序列」、「企業内組合」にあると分析した。これらのキーワードで共通する要素は、日本企業がいかに人材を重要視してきたのか、ということであろう。「経営の神様」と言われた松下幸之助は、「物を作る前に人を作る」と言ったが、それはまさに「事業は人なり」ということに通じる。かつての日本的経営の世界では、新規採用で企業に入社した場合、年功序列に従って昇進し、しかるべき地位・ポジションに就いた後、定年を迎えるということが企業側と社員側の「暗黙の了解」になっていた。例えば、社員の長期雇用を図るために、退職金については、50歳に到達しなければ満足な額を支給しなかったという企業が少なからずあったが、それは少なくとも50歳までは勤務して欲しいという企業側の思いであったであろう。よって、そのような時代に、転職するということは、多くの場合は否定的に解釈された。

さて、現在の日本ではアベグレンが日本経済の発展の源泉とした要素は残されているのであろうか。例えば、「終身雇用」という言葉は死語になっているのではないか。新聞で、「希望退職」という言葉は日常茶飯事的に見かけるようになっている。退職金前払制度を導入している企業があるが、それは、企業側は必ずしも長期雇用を「是」としないということを意味しているのではないだろうか。アベグレンの分析を体現してきたような伝統的な名門企業が、希望退職を募り、退職金前払制度を導入・推進していることは、日本企業がかつての雇用システムから離れていっていることを示唆している。

また、転職については、テレビCMでは、「転職でより良い人生が待っている」とか、スカウトを受けて喜ぶ様子が描き出されているが、これはかつての日本社会では、先に述べた高度成長期には見られなかった社会現象である。これだけを見ていると、現在のアメリカの企業社会を垣間見ているような気になる。

では、このまま日本企業はアメリカ型のような人事システムを採用することになるのだろうか。「企業とは社会の公器」と今も主張する日本の企業家たちは、アメリカのように、成績が悪いと社員を簡単にクビにしてしまうのであろうか。

多くの難題が目の前に立ちはだかっている今こそ、日本的経営とはどうあるべきかを考えるべきではないだろうか。それは企業側だけではなく、社員一人ひとりに突きつけられた課題でもある。

（経営入門、経営史、国際経営論、キャリアスキルズⅠ・Ⅱほか）

岡田 拓海さん（経済学科４年・徳島県／鳴門高校出身）

教員採用試験を目前に、グループワークや模擬授業の中止、筆記試験内容の変更があり、面接中心の試験へと大きく内容が変わりました。森さんをはじめ、教員を目指す仲間と大学の明徳館に集まって勉強会を計画していましたがそれもできなくなり、とても不安な気持ちになりました。そこで、私は森さんと共に、このピンチを乗り越えるために今取り組むべきことについて考え、Zoom を利用して面接練習を行うことを提案。面接官役と受験生役に分かれて実際に時間を計るなどして、採用試験対策に取り組みました。森さんとは、今何を勉強しているのか、面接について想定される質問は何かについて話をして、情報共有を行ってきました。

例年とは違う採用試験の勉強は一人では苦しかったですが、森さんや皆が頑張っていると思うと自分も頑張ろうという強い気持ちを持つことができました。

森さんは周りを客観的に見て意見が言える点がとても優れていると思います。将来、お互いに教員になったときも、良いところも悪いところも言い合える仲でいたいです。

森 眞拓さん（経済学科４年・広島県／祇園北高校出身）

岡田さんとは３年次で同じゼミになり、共に教員を目指してきました。私は人見知りをしやすく、初対面の人に対して苦手意識を持つことがありましたが、一緒に学ぶうちに、岡田さんの積極性や率先して物事に取り組む姿を見習いたいと思うようになりました。それからは、質問することや、人前で話す努力をするようになり、高校時代までの性格から変わることができました。岡田さんがいなければ、変わりたいという気持ちにはなっていなかったと思います。

教員採用試験の内容や日程が大幅に変更されるという発表が本来の試験日の約１カ月前だったので、今年度用の試験に合わせた準備に切り替える難しさがありました。しかし、岡田さんたちと自己ＰＲについて添削をし合うなど、お互いに意識を高め合うことができました。信頼できる仲間たちと密に連絡を取り合っていたおかげで自信を持って試験にチャレンジすることができたと思います。

ゼミでの経験全てが自分を変えるきっかけになった大事な場所です。岡田さんとはこれからも、共に協力し合える同志でいたいです。

細藤 勇気さん（経済学科３年・広島県／可部高校出身）（写真左）

登校自粛期間中は正直、活動への気持ちを保つことが難しかったです。しかし、同じリーダーという立場である西原さんと、電話などで悩みを共有していくうちに、「プロジェクト活動を支えてくれている教職員の方々、コーディネーターの先生など、自分たち以上に活動のことを考えてくれている人がいるんだ」と気づかせてくれました。支えてくださる方々の想いを無駄にしないためにも、自分のできることを精一杯やらなければいけないと気持ちを切り替えたことで、活動が再開したら何ができるのか、より良い活動をするためにはどうしたらいいかなど、徐々に前向きに考えることができるようになりました。

西原さんは、資料の作成や確認を丁寧に行っていて、責任感が強い人だと思います。また、丸一日、プロジェクト活動のことだけをする日を作ると聞いたときは驚きました。プロジェクト活動にまっすぐ向き合う姿は本当に頼もしいリーダーです。

これからも西原さんは、何でも話せる大事な友人の一人です。良いところを吸収しながら、学生 FD プロジェクト全体を成長させていきたいです。

西原 実希さん（経営学科３年・愛媛県／今治北高校出身）（写真右）

活動の制限があるなか、自分たちのできることから始めようと SNS での情報発信や活動紹介パネルの作成など、対面でなくても動物に関する知識を発信できる方法を考えていました。しかしメンバー全員で集まって活動することは難しく、悩むときもありました。そういったときは細藤さんをはじめ、同じリーダーを務める友人たちに相談をしていました。細藤さんとは電話で２時間、話し合いをした日もあり、会議の方法やプロジェクトの運営の仕方についてお互いに助言し合いました。自分にはなかった発想や考え方を見つけることができ、同じ状況で頑張っている仲間の存在が自分自身のモチベーションにもつながりました。

細藤さんは「自分のことだけでなく相手をみる」ことができていると思います。全体の様子が見えにくいなか、自分の役割だけでなく、メンバーの意見や行動を把握して活動しているところが尊敬できる部分です。コミュニケーションが取りづらい状況は続いていますが、細藤さんのように、メンバーについてきちんと理解しながら、辛さや喜びを共有できるようなリーダーを目指していきたいです。

私の雑感 ゼミナール 85

経済学部　経済学科
平下　義記
准教授

コロナ禍の中のゼミ運営

コロナ禍によりゼミ運営がどのように変化したのか、二年次生「プレゼミ」を事例に紹介する。ゼミ単位で勉強する意義は、文献を共有して学ぶことで「文献の読み方」を習得できること、グループワークにより「発表の仕方」を身につけられることにあるだろう。

このような理解に基づき、昨年度までは、「物作りの日本史」というタイトルで、船、鉄、綿、大工道具などのテーマを設定し、ゼミ生を四チームに分け、チーム別に課題文献を読んで、その歴史をまとめて報告、という運営であった。ゼミ生が同じ文献を読み込み、協力して発表を作り上げるのが重要な学びのあり方だった。

ところが、「三密」回避などのコロナ対策のため、グループワークではなく座学形式が推奨された。ゼミ生全てに異なる課題文献を提示するのも、新たに講義のような内容に変更することも、ゼミ単位で勉強をする意義を損なうように思われたため、少々困った。

そこで、この後期より、ゼミの二つの意義の内、「文献の読み方」の習得に焦点を絞った運営に切り替えた。すなわち、一冊の課題文献をゼミ生全員と教員で読み込み、文章のどの部分が重要なのか、どこに注目した読みをして、何ができれば文献を理解したと言えるのか、詳しく解説していくスタイルにした。

課題文献は、松沢裕作『生きづらい明治社会』、岩波書店、二〇一八年。明治の社会問題を論じ、現代の類似問題と対比させる。負債農民騒擾や娼婦問題など、その内容は重いが、現代社会の抱える「生きづらさ」を浮き彫りにした名著である。学生もコロナ禍で「生きづらい」と感じているためか、熱心に読んでくれている。その通読と解説から、「文献の読み方」を会得して欲しい。そこでの経験は、コロナ禍の中のゼミだけでなく、卒業後の「生きづらさ」に立ち向かう足場になると、確信している。

（日本の歴史Ⅰ、日本経済史Ⅰ・Ⅱ、経済入門、大学入門ゼミ、興動人入門ゼミ、プレゼミ、演習Ⅰ・Ⅱほか）

私の就職活動体験記

どんな状況でも、自分から一歩踏み出すことで道が拓ける

内定先　株式会社高知銀行

地元に貢献したいという気持ちが強く、大学入学時は公務員を志望していました。しかし、キャリアセンターの就職ガイダンスや企業説明会で話を聞くなかで、より地域に密着し、地域の発展を支える金融業界に興味を持ち、地元高知県の銀行員を目指しました。

新型コロナウイルスの影響で説明会などが中止になり、企業について深く知る機会がほとんどないという状況でしたが、自分でオンライン説明会を探して積極的に参加しました。受け身にならず行動を起こしたことで、納得のいく就職活動ができました。キャリアセンターの職員の方々やゼミの先生に自己PRや志望動機などをメールで添削していただけたことも心強く、自分の思いをしっかり伝えられる履歴書を作ることができました。

今後は、銀行を利用するお客様一人ひとりに寄り添い、地域経済の発展に貢献できる銀行員を目指します。そのために、金融業界で活かせる資格の勉強に励んでいます。ひとつでも多くの資格を取得し、余裕を持って業務に取り組める環境を作りたいと考えています。

●就活MUSTアイテム●

お守り

家族からもらったお守りです。青いお守りは母と姉とお揃いのもので、面接試験の前など緊張したときにお守りを見て気持ちを切り替えることができました。

全力で取り組んだ時間は必ず自分の力になる

内定先　和歌山市消防局

命をかけて人々を救う消防士や警察官に子どもの頃から憧れていました。その夢を本気で追いかけるきっかけになったのは、平成30年7月豪雨です。硬式野球部の仲間と復興ボランティアに参加し、災害の恐ろしさを目の当たりにしたことで、災害後の復興に尽力するだけでなく災害や事件・事故の予防と対策に関われる仕事に就きたいと強く思い、消防吏員になる道を選びました。

公務員試験の勉強を本格的に始めたのは部活動を引退した3年次の秋。勉強時間を確保するためにもっと早い時期に引退することも考えましたが、後悔したくないと思い野球に集中しました。主将を務め、経営の授業で学んだリーダーシップやマネジメントなどの知識をチーム運営に活かし、24年ぶりに秋の全国大会への出場を果たすことができました。

引退後は、1日6～8時間勉強し、体力試験のためのトレーニングにも毎日取り組みました。大学の公務員養成講座では、試験の知識だけでなく公務員の仕事の魅力を深く知ることができたほか、キャリアセンターや学生課の職員の方々が応援してくださったことも大きな支えになりました。

今後は消防吏員として、一人でも多くの笑顔を守っていきたいと思っています。

●就活MUSTアイテム●

憧れの仕事への情熱

「その仕事をしたい」という強い気持ちがあるからこそ、長時間の勉強や体力トレーニングも頑張ることができました。面接では、仕事への情熱をどれだけ強く持っているかが大きなカギになると思います。

メディアビジネス学科での学びを活かしてデザイナーに

内定先　合同会社DMM.com

3年次の2月にはアルバイトを辞めて就職活動に集中し、3月には大手クリエイティブ企業でのインターンシップにも挑戦しました。デザイナーを目指す仲間が身近にいなかったので情報収集には苦労しましたが、ゼミの先生やインターンシップ先の現役デザイナーの方にアドバイスをいただいたことが大きな支えになりました。

新型コロナウイルスの影響による外出自粛で孤独感を感じることもありましたが、ゼミの先生や友人、家族などに相談することで乗り越えることができました。デザイナー職の就職活動では、自分のスキルやこれまでの作品などをまとめたポートフォリオの提出を求められることが多いため、外出自粛期間は制作に集中しました。就職活動は全てオンラインで行うことができ、時間を有効に使うことができたことは良かったです。また、面接ではゼミで取り組んだ産学連携プロジェクトでクライアントの要望を真摯に受け止める姿勢を学んだことや企業の屋外広告に私のデザインが採用されたことなどを自信を持って伝えることができました。

今後はデザインスキルを高めるだけでなく、ユーザー体験や事業メリットを考えながらサービス開発に携わり、チームや事業に貢献していきたいと考えています。

●就活MUSTアイテム●

支えてくれる人たち

ゼミの宮地先生をはじめ、家族、友人など、何でも気軽に相談できる人たちがいてくれたおかげで乗り越えることができました。何でも相談できる環境を作っておくことが大切です。

コロナ禍の就職活動でも、憧れの業界で働く夢を掴んだ

内定先　田中電機工業株式会社

就職活動では新型コロナウイルスの影響で合同企業説明会が次々と中止になり、企業選びの情報収集に苦労しました。そのようななかで大学の就職支援はとても心強く、特に2月に開催された「卒業生による就活セミナー」では、29社43名の卒業生の方々が私たち後輩の就職活動のためにさまざまなアドバイスをくださったことで、戸惑うことなく就職活動の一歩を踏み出すことができました。自分が知らなかった企業についても知ることができ、企業選びの選択肢が広がりました。内定先の企業と出会えたのも、このセミナーのおかげです。また、大学が登校自粛になったときもキャリアセンターの模擬面接をオンラインで受けることができ、安心しました。自宅にいながら面接のアドバイスをいただき、どんな小さなことでも気軽に相談できたことで不安も解消されました。

大学の充実したサポートによって、高校生の頃から目指していたIT系企業で働く夢を実現することができました。

●就活MUSTアイテム●

自信を持てる服装

しっかりと採寸されたスーツと磨いた靴、違和感のない鞄や時計などを身につけることで気持ちが引き締まり、自信を持って面接に臨むことができました。

興動館プロジェクトで全力を尽くした経験が力に

内定先　一般社団法人日本自動車連盟（JAF）

車の故障やトラブルなどに対応するロードサービスだけでなく、地域と連携した地域活性化・地域創生にも貢献する企業への就職を目指しました。そのきっかけとなったのは3年次の夏。興動館プロジェクト「スポーツによる地域活性化プロジェクト」の活動でJAF中国本部と共同イベントを開催し、広島のプロバスケットボールチームの選手と子どもたちが交流するプログラムを実施しました。私はイベントリーダーを務め、打ち合わせでは毎回企画書をまとめてアイデアを最大限に伝えられるように力を注ぎました。ここでの経験が自信となり、就職活動では自分の強みとしてアピールすることができました。

就職活動が本格化する3月には、新型コロナウイルスの影響で大学は登校自粛、アルバイトも休業となり、就職活動のことばかり考えて煮詰まってしまうこともありました。そんなときは、家で体を動かしたり、興動館プロジェクトの活動を支えてくださった職員の方に相談して乗り越えることができました。

今後は、仕事を通して地域活性化・地域創生に貢献していくために、新しい情報にアンテナを張り、知識を吸収して挑戦していきたいと思います。

●就活MUSTアイテム●

信頼できる相談相手

興動館職員の柏谷さんは、興動館プロジェクトの活動のことだけでなく、就職活動の相談にも親身に乗ってくださいました。心強いサポートに心から感謝しています。

新型コロナウイルスに負けるな!

―新しい学生生活―

大学での対面授業再開に加え、半年遅れでキャンパスライフが再び動き出した。感染症の拡大防止策に取り組みながら、さまざまな活動に力を注ぐ学生たちの様子を紹介する。

課外活動

コロナ禍を乗り越えて実現したダンス部のステージ

各クラブの活動再開にあたっては、顧問等の立ち合い、健康観察表・行動記録表の記入などいくつかの条件を設けて順次活動が許可されている。今春から活動を休止していたダンス部DANCE RAZZLEは、イベントなどが軒並み中止となり、発表の場が失われた状況が続いていた。しかし、活動再開により、学生たちが自ら企画し、10月31日、無観客イベント「MORE ONE」を実現。ライブ配信も行った。

また、空手道部では、本格的な練習再開を前に、10月24日、外部講師を招いて「コロナ禍における練習についての講習会」を開催し、ガイドラインに沿った新しい練習方法を確認した。西原虎白さん（経済学科2年・愛媛県／松山商業高校出身）は「今回の講習会で安全な練習方法を確認できました。昇段審査会では初段取得を目指します」と気を引き締めた。

指導を受ける空手道部の部員たち

また、興動館プロジェクトでは、10月1日、プロジェクト認定式が開催され、本格的なスタートを切った。興動館の利用にあたっての心得を学生たちに周知しているほか、感染症の拡大防止策簡易ガイダンスの受講を義務づけるなど意識をもって活動することを徹底。中川知優さん（経営学科3年・山口県／下関南高校出身）は「感染症の拡大防止策の一つで、興動館を利用できる時間が限られているので、以前より優先順位を決めながら計画的に会議をすることができています。新入生と直接会うこともでき、お互いの表情を見ながら活動できるありがたさを実感しています」と笑顔を見せた。

研究活動

オンラインでの報告会の様子

9月18日、大学院経済学研究科において、「令和2年度修士論文作成進捗状況報告会」を開催した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンライン会議システムMicrosoft Teamsを利用して行われた。これは、前期課程2年次生による学位論文の中間報告会である。院生は全員登校し、午前と午後の部に分かれて交代で会場に来場し、来場しない時間帯は大学院研究室にて分散して視聴した。人ではなくパソコンに向かってのパフォーマンスは予想以上に難しく、何より、大学への登校自粛、制限された図書館の利用、オンラインでの研究指導という前例のない制約された研究活動を乗り越えての報告会となった。発表を終えた川城孝輔さん（経済学研究科 博士課程前期課程 経済学専修コース・広島県／安芸南高校出身）は「前期のオンラインでの指導は難しさもあったと思いますが、そういった姿は見せずに普段と変わらない研究活動ができるような環境を整えてくださった先生方に感謝しています。報告会では自分の声がきちんと届いているのか不安になりましたが、ポジティブな意見をいただき一定の成果を感じることができました」と前期の研究活動について振り返った。

今後は報告会での教員からのコメントやアドバイスを活かして、来年1月初旬の修士論文提出を目指す。院生たちの更なる精進が期待される。

女子学生同士の交流

11月5日、女子学生支援の一環として、「新入女子学生ミニウェルカムパーティー」を開催した。毎年4月に、女子学生同士の交流の機会を増やし、大学生活に対する不安を解消してもらう目的で「新入女子学生歓迎会」を開催しているが、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大のため開催を見送っていた。入学して、約半年が過ぎたが、新入女子学生のために、改めて、今できることにトライしたいと女子学生会「こまち会」のメンバーたちの強い希望により実現した。例年のようなパーティー形式ではなかったが、集まった女子学生たちは、学年、学部を超えた新しい出会いを楽しんでいた。参加した山本怜奈さん（経営学科1年・愛媛県／今治南高校出身）は「私は人見知りなので参加する前はちゃんと話ができるか、とても不安でしたが、先輩方や他の学部の1年次生と楽しく交流することができてよかったです」と声を弾ませた。

先輩女子学生と会話を楽しむ新入生

制限されたなかでも、活動を止めないために、女子学生に寄り添った支援は続く。

就職活動

10月28日、29日、第1回・第2回オンライン学内合同企業説明会が4年次生を対象に開催された。4年次生対象の学内合同企業説明会は、3月に第1回目が開催される予定だったが、参加学生の健康面を最優先に考慮し中止の判断を下した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考慮しながら、どのようにして学生たちと企業との出会いの場を設けるかを検討した結果、オンラインでの開催とした。大学がオンライン会議システムMicrosoft Teams上に参加企業12社のビデオ会議を用意し、学生たちは自宅や学内のパソコンを利用して希望企業のオンライン説明会に参加。1ターン30分、2日間で一人最大12社の参加企業とつながることができ、新しい形での学内合同企業説明会となった。

キャリアセンターの梶山健治センター長は「オンラインでの説明会を希望する企業も増えてきています。私たちはそういった企業の変化に柔軟に対応していく必要があると考えています。学生と企業のマッチングを積極的に行い、それぞれのニーズを敏感に感じとりながら学生たちの可能性を広げていきます」と力強く話した。

これからもキャリアセンターは学生たちに伴走し、より良い環境を提供していく。

サークルニュース

広島六大学野球秋季リーグ戦2季連続27度目の優勝

優勝が決まりマウンド付近に歓喜の輪を作る選手たち

10月10日、広島工業大学野球場にて無観客開催で行われた広島六大学野球秋季リーグ戦において、本学硬式野球部が近畿大学工学部を8対2で下し、最終日を残して2季連続、通算27度目の優勝を決めた。

今シーズンは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、勝ち点制ではなく試合数を抑え全チームと2試合ずつ対戦する勝率制を採用。10月11日に全日程を終え、最終成績は8勝2敗と勝率8割での優勝となった。

ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、明治神宮大会、同大会中四国代表決定戦とも中止が決定。優勝をかけた試合前日に中止の連絡を受けてモチベーションの維持が難しいなか、8勝中7勝を挙げたエース石本涼人投手（経済学科3年・広島県／広島県瀬戸内高校出身）の力投や2本塁打を放った森口雄大主将（スポーツ経営学科3年・島根県／大社高校出身）らの健闘に加え、ラストシーズンに賭けた4年次生をはじめとする全員野球で連覇を果たすことができた。

第52回全日本大学駅伝対校選手権大会 中国四国地区予選会で優勝

第52回全日本大学駅伝対校選手権大会 中国四国地区予選会でのレース

9月22日、道後山高原クロカンパーク（広島県）で行われた「第52回全日本大学駅伝対校選手権大会 中国四国地区予選会」において本学陸上競技部が優勝し、本大会への2年ぶり23度目の出場が決定した。各大学11名～13名が10kmを走り、チーム上位8名の合計タイムで競われる予選会。8位までに4名が入る健闘で、2位のチームに3分以上の差をつけての優勝となった。

今大会の優勝により出場権を獲得した「秩父宮賜杯第52回全日本大学駅伝対校選手権大会」が11月1日、熱田神宮～伊勢神宮間で開催され、目標を15位以内としていた本学は、1区で好調な滑り出しをしたが、強豪関東勢や関西勢に力及ばず20位でゴールした。

また、11月12日、9月11日～13日にデンカビッグスワンスタジアム（新潟県）にて開催された天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権大会（男子1500メートル）において、本学陸上競技部の大竹康平さん（経営学科4年・岡山県／倉敷商業高校出身）が全国3位に入賞したことを受け、学生表彰の優秀賞が授与された。

表彰状を手にする大竹康平さん

サークル戦績

○陸上競技部
▽セイコーゴールデングランプリ陸上2020東京【男子1500メートル】大竹康平（10位）
▽天皇賜盃 第89回日本学生陸上競技対校選手権大会【男子1500メートル】大竹康平（3位）・山崎優希【男子800メートル】山崎優希【女子400メートルハードル】藤原めい
▽第104回日本陸上競技選手権大会【男子1500メートル】大竹康平
▽JOCジュニアオリンピックカップ 全国高等学校陸上競技大会2020兼U20全国陸上競技大会【男子800メートル】山崎優希（3位）
▽秩父宮賜杯 第52回全日本大学駅伝対校選手権大会（20位）

「さわやかあいさつ運動」に学友会が参加

活動を終え、地域の皆さんと記念撮影

9月24日、広島市立祇園小学校正門・東門、JR下祇園駅前にて実施された「さわやかあいさつ運動」に本学学友会の学生と職員が参加した。

当日は、安佐南区役所や祇園地区青少年健全育成連絡協議会と連携し、JR下祇園駅を利用する通勤・通学者にあいさつを呼びかけた。この日は後期授業の開始日でもあり、JR下祇園駅には本学学生の姿も多く見られた。明るい地域社会の創造やあいさつ・声かけを防犯につなげるなど、多様な目的を持つあいさつ運動に参加した、学友会会長の曽根孔雅さん（経済学科4年・愛媛県／今治北高校出身）は「祇園学区の皆さんと一緒にあいさつ運動に参加し、清々しい朝を迎えることができました。久々に会う友人もいて、嬉しい一日のスタートとなりました」と語った。

令和3年度 学生募集要項

学部および大学院の入試要項を配付しています。
お申込みは本学オフィシャルサイト・電話・メールなどで。
〒731-0192　広島市安佐南区祇園五丁目37番1号
(学部・大学院)入試広報センター☎082-871-1313／✉ent-sc@hue.ac.jp
(留学生)国際教育交流センター☎082-871-1002／✉int-sc@hue.ac.jp

■大学院　博士課程前期課程
[一般選抜（Ⅱ期）]

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程　[研究者養成コース・経済学専修コース]10名(外国人留学生、国外受験者、外国人留学生指定校推薦を含む)
出願期間	Ⅱ期＝2021年1月15日(金)～2月2日(火)【締切日消印有効】
試験日	Ⅱ期＝2021年2月17日(水)・18日(木)
合格発表	Ⅱ期＝2021年2月26日(金)午前10時

[社会人特別選抜（Ⅱ期）]

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程　[経済学専修コース]若干名(外国人留学生を含む)
出願期間	Ⅱ期＝2021年1月15日(金)～2月2日(火)【締切日消印有効】
試験日	Ⅱ期＝2021年2月18日(木)
合格発表	Ⅱ期＝2021年2月26日(金)午前10時

■大学院　博士課程後期課程

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程　[研究者養成コース]3名(外国人留学生、国外受験者を含む)
出願期間	2021年1月15日(金)～2月2日(火)【締切日消印有効】
試験日	2021年2月17日(水)
合格発表	2021年2月26日(金)午前10時

■学部　学校推薦型選抜（資格スカラシップ）【2期・3期】

募集人員		経済学部(経済学科)／経営学部(経営学科・スポーツ経営学科)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科・メディアビジネス学科)　若干名
2期	出願期間	2021年1月4日(月)～1月22日(金)【締切日消印有効】
	試験日	2021年2月6日(土)
	合格発表	2021年2月16日(火)午後3時
3期	出願期間	2021年2月17日(水)～2月25日(木)【締切日消印有効】
	試験日	2021年3月4日(木)
	合格発表	2021年3月11日(木)午後3時

■学部　一般選抜（1期・2期）

1期	募集人員	経済学部(経済学科105名)／経営学部(経営学科100名・スポーツ経営学科25名)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科25名・メディアビジネス学科25名)
	出願期間	2021年1月4日(月)～1月22日(金)【締切日消印有効】
	試験日	2021年2月6日(土)・7日(日)
	合格発表	2021年2月16日(火)午後3時
2期	募集人員	経済学部(経済学科20名)／経営学部(経営学科20名・スポーツ経営学科5名)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科5名・メディアビジネス学科5名)
	出願期間	2021年2月17日(水)～2月25日(木)【締切日消印有効】
	試験日	2021年3月4日(木)
	合格発表	2021年3月11日(木)午後3時

※試験日自由選択制　2月6日・7日の試験日をどちらか、又は両日とも選択することができます。両日とも同一学科を受験した場合は、高い方の合計得点で選考します。【1期のみ】
※複数学科併願制　1回の受験で5学科まで出願することができます。

■学部　共通テスト利用選抜（1期・2期）

1期	募集人員	経済学部(経済学科40名)／経営学部(経営学科40名・スポーツ経営学科10名)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科10名・メディアビジネス学科10名)
	出願期間	2021年1月4日(月)～1月29日(金)【締切日消印有効】
	合格発表	2021年2月16日(火)午後3時
2期	募集人員	経済学部(経済学科10名)／経営学部(経営学科10名・スポーツ経営学科5名)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科5名・メディアビジネス学科5名)
	出願期間	2021年2月17日(水)～2月25日(木)【締切日消印有効】
	合格発表	2021年3月11日(木)午後3時

※複数学科併願制　1回の受験で5学科まで出願することができます。

■学部　社会人入学試験

募集人員	経済学部(経済学科)／経営学部(経営学科・スポーツ経営学科)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科・メディアビジネス学科)　若干名
出願期間	2021年2月17日(水)～2月25日(木)【締切日消印有効】
試験日	2021年3月4日(木)
合格発表	2021年3月11日(木)午後3時

■学部　編入学試験

募集人員	経済学部(経済学科)／経営学部(経営学科・スポーツ経営学科)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科・メディアビジネス学科)若干名
出願期間	2021年2月17日(水)～2月25日(木)【締切日消印有効】
試験日	2021年3月4日(水)
合格発表	2021年3月11日(木)午後3時

※事前審査で編入学年が決定している場合のみ出願することができます。

■学部　外国人留学生公募制推薦入学試験

募集人員	経済学部(経済学科)／経営学部(経営学科・スポーツ経営学科)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科・メディアビジネス学科)　6名
出願期間	2021年1月4日(月)～1月19日(火)【締切日消印有効】
試験日	2021年2月4日(木)
合格発表	2021年2月16日(火)午後3時

※複数学科併願制　1回の受験で2学科以上出願することができます。

■学部　外国人留学生入学試験（Ⅰ期・Ⅱ期）

募集人員	Ⅰ・Ⅱ期＝経済学部(経済学科)／経営学部(経営学科・スポーツ経営学科)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科・メディアビジネス学科)　若干名
出願期間	Ⅰ期＝2021年1月4日(月)～1月19日(火)【締切日消印有効】 Ⅱ期＝2021年2月5日(金)～2月19日(金)【締切日必着】
試験日	Ⅰ期＝2021年2月4日(木)／Ⅱ期＝2021年3月2日(火)
合格発表	Ⅰ期＝2021年2月16日(火)午後3時／Ⅱ期＝2021年3月11日(木)午後3時

※複数学科併願制　1回の受験で2学科以上出願することができます。

■学部　外国人留学生のための書類選考による入学試験

募集人員	経済学部(経済学科)／経営学部(経営学科・スポーツ経営学科)／メディアビジネス学部(ビジネス情報学科・メディアビジネス学科)　若干名
出願期間	2021年1月4日(月)～1月19日(火)【締切日消印有効】
選考日	2021年2月4日(木)
合格発表	2021年2月16日(火)午後3時

BOOKS

◆広島経済大学経済研究論集　第43巻　第2号　(2020年11月)
中野安雄教授 退任記念号

中野安雄教授　写真・略歴・業績
中野安雄先生のご退任によせて　一橋　信之(教　授)
【論　説】
アダム・スミスの「商業的社会」　中川　栄治(名誉教授)
構造VARモデルの識別性と推定(Ⅰ)
―正規性誤差項の場合―　前川　功一(名誉教授)
プロバスケットボールの試合における勝利の値段
―B.LEAGUEの年俸と勝数の関係―　永田　智章(教　授)
営業におけるクリエイティビティとルーティン化の関係
―外的報酬による調整効果の検討―　関　隆教(助　教)

◆広島経済大学研究論集　第43巻　第2号　(2020年11月)
松井一洋教授 退任記念号

松井一洋教授　写真・略歴・業績
松井一洋先生のご退任によせて　北野　尚人(教　授)
歴史の目撃者として―感染症時代を生きる―　松井　一洋(名誉教授)
【論　説】
ニュージーランドのスポーツ傷害補償制度　内海　和雄(名誉教授)
川井　圭司(同志社大学教授)
中村　周平(同志社大学博士課程)
中学校社会科教師の授業づくりを推進する校内研修
―「熟練期」社会科教師と同僚社会科教師、社会科教育学教師が対話する授業研究―　胤森　裕暢(教　授)
松岡　美香(広島市立口田中学校主幹教諭)
重　秀雄(広島市立東原中学校教諭)
児童・生徒の数学的活動を促す授業づくりに関する研究
―数と式の教材研究を通して―　平岡　賢治(教　授)
野本　純一(長崎県佐世保市立早岐中学校教諭)
日本の相続法における相続分の譲渡に関する研究　餅川　正雄(教　授)
ソーシャルメディアを利用した広島における
訪日外国人旅行者の行動分析　石野　亜耶(准教授)
【研究ノート】
厳重特殊傳染性肺炎防治及紓困振興特別條例
(新型コロナウイルス感染症の予防、治療及び救助、振興特別条例)(条文仮訳)
宮畑　加奈子(教　授)
職場のコミュニケーションを改善するためのUXデザインの開発
宮地　英和(准教授)
寺川　純(株式会社LOKOSOL代表)

学生の皆さんへ
『論集』には先生方の最新の研究成果が掲載されています。最新号は、1号館玄関・図書館・メディア情報センター等に置いていますので、各自自由に持ち帰ってください。また、バックナンバーをご希望の場合は、地域経済研究所まで来てください。

保護者様向けメールマガジン配信中
(通称:HUE(ヒュー)メル)

本学では、広島経済大学の最新情報を月初めにメールマガジンで配信しています。ぜひ、ご登録のうえご覧いただき、広島経済大学及び学生たちのことを知る一助にしていただければと思います。保護者の皆さまの多数のご登録をお待ちしております。登録方法はオフィシャルサイトから“保護者の方”をクリックしてください。

令和3年度 総合型選抜 入学試験結果報告

令和3年度総合型選抜を10月に実施した。
以下の表を入試結果として報告する。

●総合型選抜

入学試験	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
総合型選抜	20	57	57	12	4.8

特殊詐欺被害未然防止で 安佐南警察署から感謝状贈呈

感謝状を受け取る下田さん

8月27日、安佐南警察署において、下田修さん（ビジネス情報学科3年・広島県／崇徳高校出身）が「特殊詐欺被害未然防止による功労」をたたえられ、安佐南警察署長から感謝状が贈られた。

下田さんは、5月4日にアルバイト先のローソン広島伴東三丁目店において、高額な電子マネーを購入しようとしていた高齢者に対し、特殊詐欺の可能性を疑い、積極的な声掛けと迅速な警察への通報により、犯罪被害を未然に防止した。

感謝状を受け、下田さんは「日頃から店内放送や店内共有で特殊詐欺防止の啓発を目にしていたので、すぐに怪しいと気がつきました。未然に防げて良かったです」と笑顔を見せた。

令和2年度 石田学園アクティブ奨学生決定

表彰者たち

令和2年度石田学園アクティブ奨学生5名が決定した。さまざまな分野において若者らしい積極的な活動を行っている奨学生は次のとおり。

●石田学園アクティブ奨学生（5名）

大濱航平（経営学科4年）＝存続の危機にある応援団の団長として、大学及び各クラブの活動を支えてきた。今後も卒業まで、後輩の指導や部員勧誘に取り組んでいくため。

廣瀬竜也（スポーツ経営学科4年）＝サッカー部主将としてサッカー部を改革するために、今までに行ったことのないさまざまな取り組みを行い、部の発展に著しく貢献した。4年次生で残り少ない学生生活ではあるが、今後も大学行事や地域ボランティアにも取り組んでいくため。

大野仁美（メディアビジネス学科4年）＝ドキュメンタリー作品制作で2度受賞し、大学の名を高めた。その他、オープンキャンパスでの大学への貢献、クラブ活動のマネージャーも務めており実績は十分である。また、卒業までに、再度映像に手を加え、完結させることや、後輩指導を行う意欲が伺えたため。

曽根孔雅（経済学科4年）＝文化局定期演奏会実行委員長を経て現在学友会会長を務めている。精力的に学友会の改善に取り組んでいることや、大学評価委員会でも大変前向きな意見を寄せてくれている。大学への貢献度は高い。今後も、学友会の課題に取り組んでいくため。

明代大弥（スポーツ経営学科3年）＝興動館プロジェクトでの活動に加え、広経大カップでも、中学校を回って説明するなど対外的な活動も行っている。その他、クラブ活動の主将、成績も優秀なことから。

「地方の時代」映像祭2020 「優秀賞」を受賞

「優秀賞」に輝いたメディアビジネス学科の学生たち

11月14日、第40回「地方の時代」映像祭2020の贈賞式が関西大学千里山キャンパス内において開催され、メディアビジネス学科徳永ゼミナールの学生たちが制作したドキュメンタリー作品が、市民・学生・自治体部門で「優秀賞」に輝いた。

「優秀賞」を受賞したのは被爆者なき後のヒロシマの継承をテーマにした「継ぐ被爆三世たちのヒロシマ」。体験してはいない記憶、証言者の声を後世にどうすれば届けられるのかを模索し葛藤する被爆三世をとりあげた意欲作である。徳永博充教授は「ドキュメンタリーは、対象者の葛藤を引き出し普遍化する精神作業です。閉じ籠りがちな昨今の学生には、ハードルが高い挑戦です。ただ、学生を成長させるためには有効なメソッドだともいえます。入賞を逃した者を含め、やり遂げた学生たちを祝福したいと思います」と受賞の喜びを語った。

本学図書館
所蔵書物紹介コーナー　知の系譜　No.49

ダーウィン「種の起源」初版　1859年　ロンドン刊

Darwin, Charles, 1809-82.
On the origin of species by means of natural selection, or the preservation of favoured races in the struggle for life.
London: John Murray, 1859.

本書は、科学的な視点から「生物が進化する」ことを証明したダーウィンの名著である。この中で提唱された進化論は、古くから信じられていた神による天地創造説をくつがえし、生物学のみならず自然科学全体に大きな影響を与えた。

著者のダーウィンはイギリスの上流階級の家庭で生まれ育ち、牧師になるためにケンブリッジ大学を卒業した。しかし、22歳の時にイギリス海軍の観測船ビーグル号で南米を探検したことをきっかけに、博物学者としての道を歩み始めることになった。

5年にわたる航海の間、行く先々で地質を調査し、動植物の生態を観察した彼は、帰国後、収集した膨大な博物標本を整理する中で、「自然選択」の理論にたどりついた。そして、「生物が進化する」ことに確信をもったものの、キリスト教の教義を重んじる世間の批判を恐れて発表に踏み切れず、着想から20年以上経ってようやく本書が出版された。

出版当初は批判もあったが、ダーウィンの知名度もあって話題を呼び、初版の1250部は即完売となった。その後も彼の存命中に第6版まで版を重ねるほど人気となり、多くの言語に翻訳されながら、自然科学の歴史に残る古典として読み継がれている。本学の収蔵本は「From Author」のサインがあり、著者から献呈された貴重な一冊である。

すべての項目で 第1位を獲得!

●就職に力を入れている大学　●改革力が高い大学
●入学後、生徒を伸ばしてくれる大学　●学びたい学部・学科がある大学
●オープンキャンパスに参加し、入学したくなった大学

「就職に力を入れている大学」では国公立を含めた中国・四国地区で1位を昨年に引き続き獲得した。「改革力が高い大学」、「入学後、生徒を伸ばしてくれる大学」では、中国・四国地区私立大学で堂々の1位を獲得。

また、昨年ランク外だった「学びたい学部・学科がある大学」、「オープンキャンパスに参加し、入学したくなった大学」でも、同様に中国・四国地区私立大学で1位を獲得した。

※いずれのランキングも大学通信が毎年調査しているもので、全国の進路指導教諭に対してアンケートを実施した結果による。